

インフォームド・コンセントと同意書

8月末、ちょっと気になることがあり、かかりつけの医院で診てもらったところ、大きな病院をその日の内に受診することを勧められ紹介された。

その日から通院しながら精密検査や検査入院を受診しているが、各種検査の説明を受けてその一つ一つに同意書に署名を求められるが、長年病院勤めだっただけに、ここ10数年の医療現場の様変わりや医療検査の進歩にまず驚いた。

こんな検査まで同意書が必要なの？と思うものもあるが、医療訴訟が多いことやインフォームド・コンセント実施の証からか、こうした手続きが必要なのかなあと納得。

同意書には検査内容やリスク記載されたものもあり、また、検査によってはそのリスクも当然医師から説明されるものもある。

患者にすれば病気かも…と動揺しているのに、医師から検査の説明を受けたからといって十分な医学的知識・情報を持って聞いている訳ではないので、人によってはそのリスクは更に不安を増すかも知れないとも思えた。

だからか、意見書には、署名しても検査前に取り消し可能の旨や他の医師からの説明を希望するかどうかの選択肢の記載もあるが…。

もしそうしたことにチェックを入れて、時間をかけてネット上であれこれ検索することも可能だが、ネット上ではなおのことあれこれ情報が多くて、更に戸惑が増すこともあり得る。

更に検査に日にちと時間がかかり治療も遅くなることも考えられ、果たして患者はそうした方法を探るかどうか、かなり疑問。

また、そうした手間暇をかけることがインフォームド・コンセントをしてくれた医師にどうした印象与えるか、この病院で治療をお願いするかも知れないと思うと、信頼関係の側面からも患者はつい躊躇するのでないだろうか。

自分の場合、8月末の初診日に各種精密検査に全て同意書に署名したので予約を入れてくれたが、それとて大きな病院だけに他の患者の検査予約の空いている日時を見つけてのことで、各検査結果を診ての医師からの診断や治療方針の説明日は初診日から約20日以上経ってからとなる。

初診日に各種精密検査の予約を入れてさえこれだけの期間が必要で、もし、躊躇していると診断名がはっきり分かるまでは更に日時を要することになり、その間、診断名が分からないという不安は続くことになる。

インフォームド・コンセントで不安が緩和し安心するという側面と、それにより自身の内面に不安、動揺が生じるかもしれないという、相矛盾する両側面のあることも患者として認識しておくことも大切なような気がしている。